

「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり」のお知らせ

いっしょに始めませんか

芥川の豊かな生態系の回復や保全を目的に、いろんな分野の専門家が集まって結成した準備委員会。より親しみをもてる「芥川」として、これから親水活動を進めていきます。



「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり」準備委員会メンバー

- たかつき環境市民会議
- 石山都督(川いい会)
- 中川修一(高槻ライオンズクラブ)
- 高田みちよ(あくあびあ芥川)
- 横山達也(水道記念館)
- 大阪府
- 小村一也(nature works)
- 高槻市

サポーターも募っていきます

芥川が大好き、魚みちづくりをしたい。いっしょに活動をお手伝いしていただける仲間づくりも進めていきます。

こんなお手伝いができる方をとくに歓迎します。

- HPづくり
- 情報誌づくり
- イベントサポート
- 河川の調査
- 事務局サポート



イベント情報

4月29日(祝)「芥川を見て・知って・感じてみよう」**入場無料**
午前10時～3時

「こいのぼりフェスタ1000」の特設ブースで、準備委員会がデビュー。ぜひお気軽に、ご家族でお越しください。

会場周辺地図



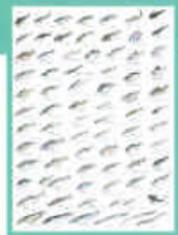
1 簡単ペーパークラフト教室を開催!

芥川に棲む魚や虫などを1枚の紙で作ってみませんか。はさみを使えるなら、お子様でも参加OK。参加料は無料。



2 特製・淡水魚ポスターをプレゼント!

簡単なアンケートに答えて、豪華A2サイズのポスターをもらおう。超リアルな78種類の魚が掲載されています。
※魚の絵は中面をご参照ください。



3 いろんな魚の捕り方を見てみよう!

投網やタモ網で、専門家が芥川の魚を捕ります。捕ったばかりの生き物たちは、特設ブース内の水槽で展示します。



★今後のイベント予定★

- 川づくりフォーラム
- 芥川に「さかなみち」をつくろう
- おかえり・あゆちゃん クリーン作戦
- 自然観察会
- アート教室
- スケッチ大会
- etc.

芥川倶楽部

創刊
準備号

ひとと魚にやさしい芥川をネットワークする情報誌

芥川・ひとと魚にやさしい川づくり

Are you?



Yes, 芥川ファン!

準備委員会

よろしく!
「あゆちゃん」です。
「Are you? (君は?)」と
問いかけるあゆちゃん。
さて、あなたは
「Yes, 芥川ファン」と
答えてくれるかな。

はじめまして!

芥川・ひとと魚にやさしい川づくり準備委員会です。

近年、地球環境問題とともに「人と自然の共生」が謳われるようになり、各分野で自然環境の保全・回復が検討されています。そのような中、準備委員会は、現在の芥川がさらに地域の人々に親しまれる川となるとともに、魚や野鳥たちをはじめとする多様な生き物が、自然なかたちで棲むことができるようサポートしたいと考えて、発足いたしました。「新しい水辺の楽しさを見つけたい」「アユが遡上できる川にしたい」「いろんな生き物がある川をつくりたい」「美しい川を子どもたちに残したい」と願っているのです。そして、たくさんの人々が芥川を愛する活動に参加してほしいと思っています。

アユをシンボルに、多様な生き物とふれあいを通じて心の豊かさの回復を

日本の河川は

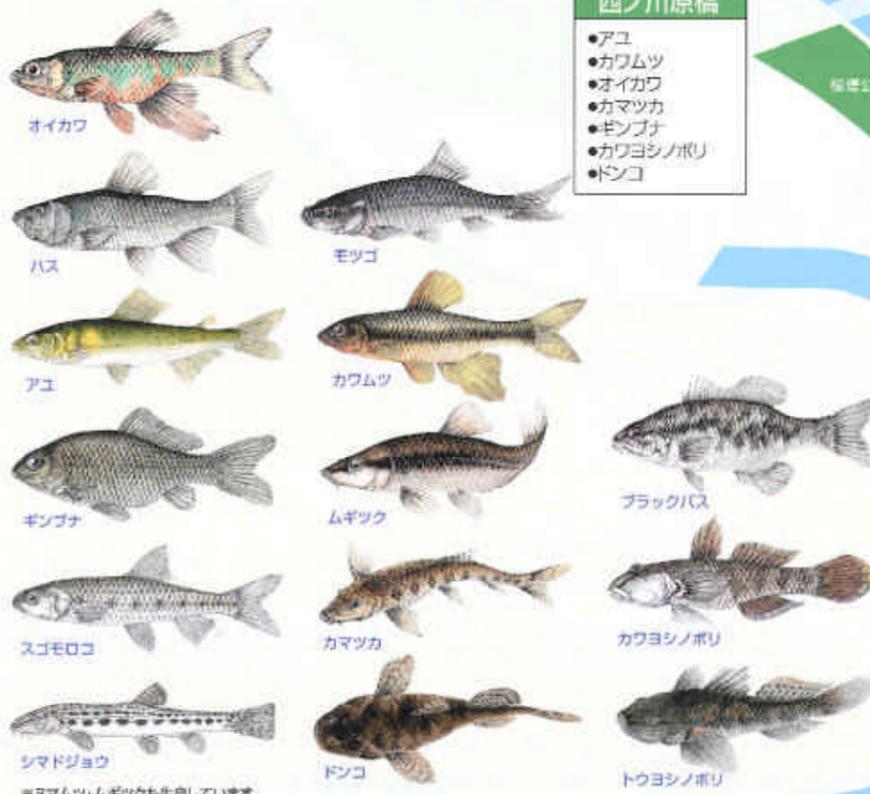
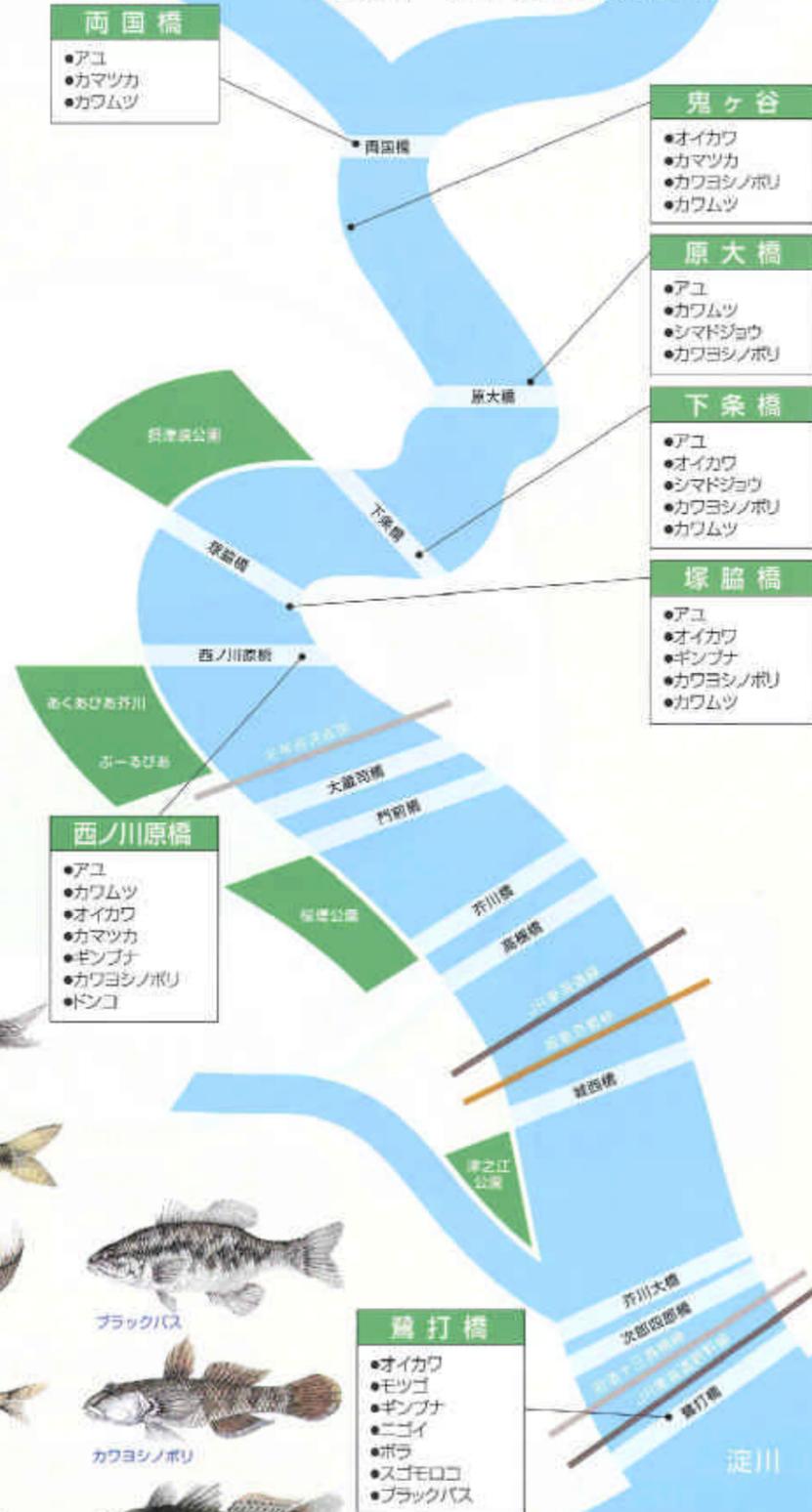
山の多い日本の川は、外国に比べると短く急です。このため、昔から川の氾濫を防ぐために堤防や落差工が、いつも一定の水量を確保するために堰がつくられてきたのです。こうした整備は、まちを洪水から守る反面、人を川から遠ざけていました。

現在の芥川は

本来、川は流れの速い瀬と流れのゆるい淵が交互に連続するものです。川は、水に棲む生きものたちの大切な道。水の中で実は多くの生きものたちが上ったり下ったりしています。そうした生きものたちが様々な食物連鎖の輪をつくり、その営みが川の水をきれいにしていきます。

現在、芥川にも多くの落差工や堰ができ、海で育ち、川の上流で産卵するアユのような魚は、いくつもの段差に阻まれて、川を上ることができなくなりました。ドンコ・カマツカなどの底生魚も移動を妨げられ、棲む場所が分断されてしまいました。一見、快適な芥川も、残念ながら、魚たちには棲みにくい環境といえるのです。

1999年～現在までの魚類分布



★落差工＝河床の洗掘を助いで河川の勾配を安定させるために、河川を横断して設けられる施設です。
★堰＝農業用水・工業用水・水道用水などの水を川からとるために、河川を横断して水位を制御する施設です。

準備委員会の理念

芥川は高槻市を縦に流れ、また市の都市シンボルとして市民に親しまれ、人々の生活にも密接に関係しています。準備委員会は、市民とパートナーシップを組んで、NPO・教育機関・企業など多様な団体の力を借りながら「ひとと魚にやさしい川づくり」を追求したいと思っています。



「さかなみち」とは

タヌキやキツネなど、けものが通る道が「けものみち」。実は魚にも通路があり、準備委員会では「さかなみち」と呼んでいます。この名前には、魚たちに人の手が加わったものと意識させない道であって欲しいという願いを込めています。そして、芥川で最も魚たちの障害となっている川の「堰をどうしようか？」と話し合っています。私たちの考えは、あくまで「より自然に近い状態」。本来の川の流れに近い「さかなみち」が実現できれば、アユなどの魚たちは川の小さな段差だと思って遡上し、川に棲むすべての生物が違和感なく受け入れてくれるのではないかと考えています。

「さかなみち」を造るには

大規模な改修工事を行うのではなく、市民レベルで実現可能な「さかなみち」をつくらせたいと考えています。魚が好きな人、川が好きな人が集まれば、きっと実現できるはず。いずれは魚たちにもその気持ちが伝わることでしょ。

- 1 「さかなみち」をつくる前に河川環境を調査します。
- 2 自然な川の姿、瀬と淵の連続する川を目指します。
- 3 魚が上流へも下流へも移動しやすい川を目指します。
- 4 人と川の共生をみんなで考えていきます。

「さかなみち」をつくる効果

